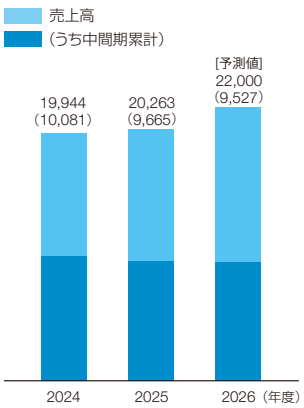
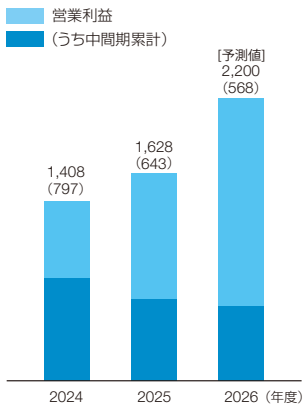
連結業績ハイライト

（単位:百万円）

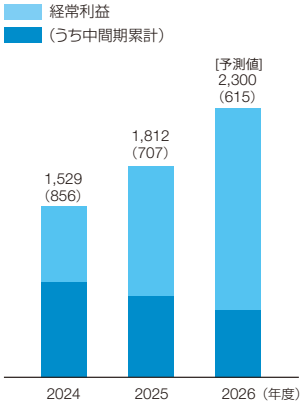
■ 売上高



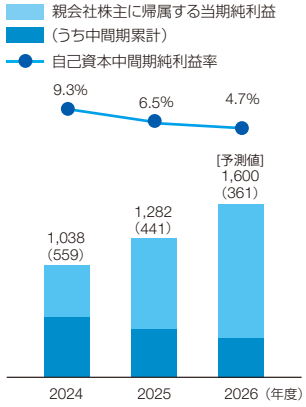
■ 営業利益



■ 経常利益



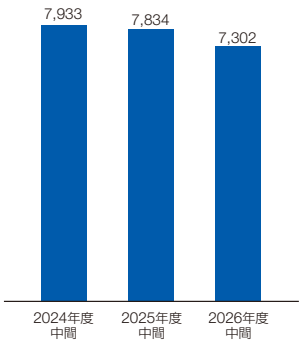
■ 親会社株主に帰属する当期純利益



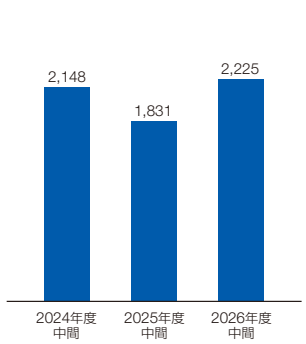
事業別の概況

（単位:百万円）

■ ビジネスソリューション事業



■ IoTソリューション事業

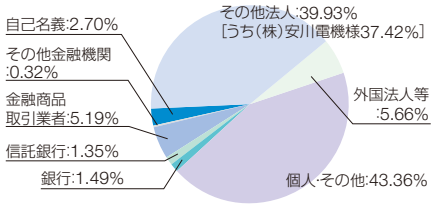


株主情報

株式の状況 （2026年8月31日現在）

株式の総数	64,000,000株
発行済株式の総数	18,543,700株
株主数	12,293名

株式数の分布状況 （2026年8月31日現在）



北海道	0.41%
東北	1.07%
関東	21.80%
中部	5.09%
近畿	8.73%
中国	3.06%
四国	1.33%
九州	52.88%
[うち(株)安川電機様37.42%]	
外国	5.63%

株主メモ

事業年度	3月1日～翌年2月末日
期末配当金受領株主確定日	2月末日
中間配当金受領株主確定日	8月31日
定時株主総会	毎年5月
株主名簿管理人特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 0120-232-711（通話料無料） 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う公告掲載URL https://www.ye-digital.com （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）
住所変更、配当金受取方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について	株主様が口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）にお問い合わせください。証券会社に口座開設をされていない株主様は、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社本支店にお問い合わせください。
未払配当金の支払いについて	三菱UFJ信託銀行株式会社本支店でお支払いいたします。

会社概要 （2026年9月1日現在）

商号	株式会社 YE DIGITAL
本社	福岡県北九州市小倉北区米町二丁目1番21号
東京支社	東京都渋谷区道玄坂一丁目21番1号
設立年月日	1978年2月1日
資本金	808百万円
従業員数	513名
主な事業	ビジネスソリューション事業 IoTソリューション事業
連結子会社	株式会社 YE DIGITAL Kyushu 株式会社アイキューブデジタル

26J.12.83XP.YOB



株主のみなさまへ

2027年2月期 vol.47

2026年度中間
2026年3月1日～2026年8月31日

証券コード: 2354

YE DIGITAL

ごあいさつ

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

この度の令和8年熊本地震により亡くなられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災されたみなさまならびにそのご家族のみなさまに心よりお見舞い申し上げます。

当社グループは、中期経営計画の2年目となる2026年度において顧客価値の最大化を追求し、以下の4つの取組みを推進しております。

1 新規獲得した重点顧客とのチャネル（接点）を最大限活用し、クロスファンクショナルな顧客価値提案による受注拡大を目指します。

2 新サービス「AQUA DataFusion」や「COREVIO」の立上げを加速し、早期事業化・収益化につなげます。

3 生成AIの活用の全社展開と更なる加速により、生産性および収益性の最大化を目指します。

4 人的資本経営の推進により、人材価値の最大化と組織力の強化を図ります。

受注拡大については、安川電機グループと連携した積極的な提案活動、製造業を中心とした重点顧客の開拓に取り組みました。新サービスの早期事業化・収益化については、市場調査などからニーズを把握し、ターゲット層・訴求点を明確化したうえで、営業活動を推進しました。

また、生成AIの活用については、ビジネスDX事業における試験的な活用で得られた知見をもとに、全社で安全に利用できる環境の整備を完了しました。さらに、人材価値の最大化・組織力の強化については、人的資本経営を推進するため、人材のあるべき姿を定義・層別化し、各層における課題の明確化と人事マネージメント施策の検討を進めました。

その結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高95億27百万円（前年同期比1.4%減）、営業利益5億68百万円（同11.7%減）、経常利益6億15百万円（同13.0%減）、親会社に帰属する中間期純利益は3億61百万円（同18.2%減）となりましたが、通期では計画達成を見込んでおります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも変わらぬご指導、ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



YE DIGITAL

代表取締役社長

玉井　裕治

トピックス

WES「MMLogiStation」サービス強化・展開拡大・デジタルツイン活用の推進

当社が提供する倉庫自動化システム（WES）「MMLogiStation」について、2026年6月からサービス強化を実施しました。また、7月には株式会社安川電機の八幡西事業所ロボット第5工場に採用されました。さらに、NVIDIA Omniverse™との連携によるデジタルツイン*1活用を進め、物流現場の高度化を支援しています。

*1 デジタルツイン：現実世界のモノや仕組みをIoTで集めたデータを使って仮想空間に再現し、シミュレーションや分析に活用する技術

WES「MMLogiStation」のサービス強化

- 製造業向け工程間搬送自動化パッケージを2026年夏に提供開始
- 複数拠点対応WES基盤の提供により、システム改修コストの削減と倉庫立上げ期間の短縮





関連サイト　製造業向け工程間搬送自動化パッケージを提供開始　複数拠点対応のWES基盤提供開始

WES「MMLogiStation」の展開拡大

- 安川電機の最先端生産拠点(八幡西事業所ロボット第5工場)にWES導入（NVIDIA Omniverseとのデジタルツイン連携検証を実施）



関連サイト　安川電機の先端工場にWES導入

デジタルツイン活用の推進

- YEデジタルとNVIDIA、フィジカルAI*2分野で協業
- デジタルツイン基盤「MMDigitalFactory」を開発、2027年1月より第一弾「Assessment」機能を提供開始

*2 フィジカルAI：現実世界（フィジカル）とサイバー空間をつなぎ、AIによって最適化・自律化を行う技術領域



関連サイト　NVIDIAとの協業　MMDigitalFactory提供開始

最先端AIサービスの現場実装を支援する拠点「AQUA AI HUB」を2027年1月に開設

当社は、AIサービスの体験・実証・運用を一体的に支援する拠点「AQUA AI HUB」を、ITカスタマサービスセンター「Smart Service AQUA」内に2027年1月開設予定です。第一弾として、設備投資やレイアウト変更をデジタル空間上で事前検証できるデジタルツインプラットフォーム「MMDigitalFactory」を提供し、お客さまのAI活用を導入前の検証から導入後の運用・改善まで一貫して支援する体制を構築します。



（注）画像はイメージです。

関連サイト　最先端AIサービスの体験・実証・運用を支える拠点「AQUA AI HUB」開設

「投資家向け決算説明会」（2026年10月5日 野村IRにて開催）でもご紹介しております。

QRコードからIRサイトへアクセスし、「説明会資料」内の「2026年度」をご覧ください。

株式会社 YE DIGITAL ホームページ

https://www.ye-digital.com/

IRページ　https://www.ye-digital.com/ir/